

第2四半期 決算説明資料
(2022年度)

2022年12月12日



2022年度 第2四半期 決算概要

2022年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症第7波による感染拡大があったものの、各種政策の効果もあり持ち直しの動きがみられましたが、急激な円安の進行や、エネルギー価格を中心とした物価の上昇等もあり、景気の先行きには依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具を中心に労働安全衛生保護具を供給している当社は、新型コロナウイルス感染症対策向けマスクの受注が好調だったこと、また主要顧客である製造業からの受注も堅調に推移したことから、売上高は前年同四半期比12.3%増の57億18百万円となりました。
- また、利益面でも、製品売上高の増加の影響により製品原価は増加したものの、製品原価率の改善により売上総利益は前年同四半期比24.5%増の19億34百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、効率的な営業活動を推進した結果、全体としては前年同四半期比4.1%増の15億27百万円にとどまりました。
- 以上の結果、営業利益は、前年同四半期比3億19百万円増の4億6百万円、経常利益は、前年同四半期比3億22百万円増の4億39百万円、四半期純利益は、前年同四半期比1億19百万円増の3億9百万円の増収増益決算となりました。

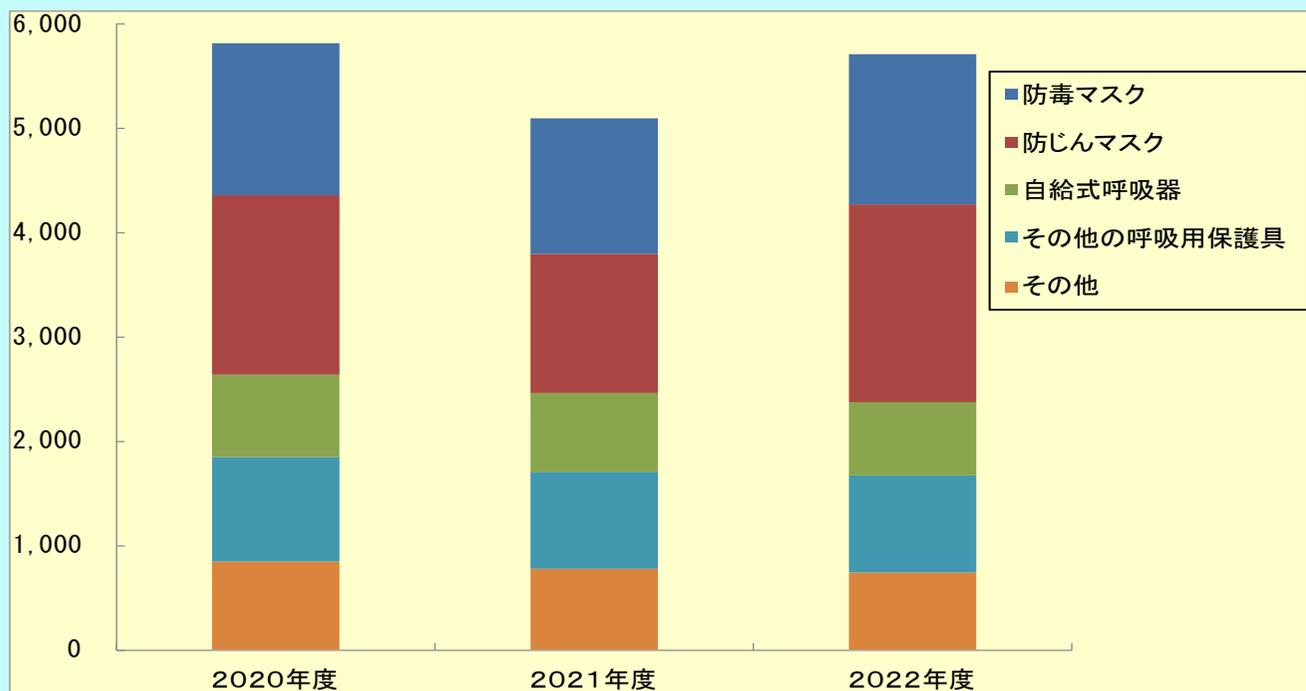
2022年度 第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	21年度第2四半期	22年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	5,092.4	5,718.1	625.7	新型コロナウイルス感染症対策保護具の受注が期初から好調に推移したことから、売上高は前年同期間比で6億25百万の大幅増収となりました。
製品製造原価	2,599.8	2,891.8	292.0	前年同期間比で、製品製造原価の2億92百万円増加を主因に、売上原価全体では2億44百万円増加したものの、売上高の増収額が大きいこともあり、売上総利益は3億80百万円増加の19億34百万円となりました。
商品原価	938.9	891.8	△47.1	
売上原価	3,538.7	3,783.6	244.9	
売上総利益	1,553.7	1,934.6	380.9	
販売費及び一般管理費	1,467.0	1,527.9	60.9	前年同期間比で、販売費及び一般管理費は60百万円増加しましたが、売上総利益の増加を受け、営業利益が4億6百万円の大幅増益となりました。
営業利益	86.7	406.7	320.0	
営業外収益	44.8	57.4	12.6	営業利益の大幅増加に加え、営業外収益・費用差の好転もあり、経常利益は前年同期間比で3億22百万円の大幅増益となりました。
営業外費用	14.9	24.6	9.8	
経常利益	116.6	439.4	322.8	
特別利益	168.5	—	—	今期は特別利益として計上すべきものはありません。特別損失も前年同期間比で微減となっています。
特別損失	7.0	4.1	△2.8	
税引前四半期純利益	278.1	435.3	157.2	法人税等調整額を含めた税負担後の四半期純利益は3億9百万円と、前年同期間比で1億19百万円の大幅増益となりました。
法人税、住民税及び事業税	2.9	87.3	84.4	
法人税等調整額	85.6	38.8	△46.8	
四半期純利益	189.6	309.2	119.6	

第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

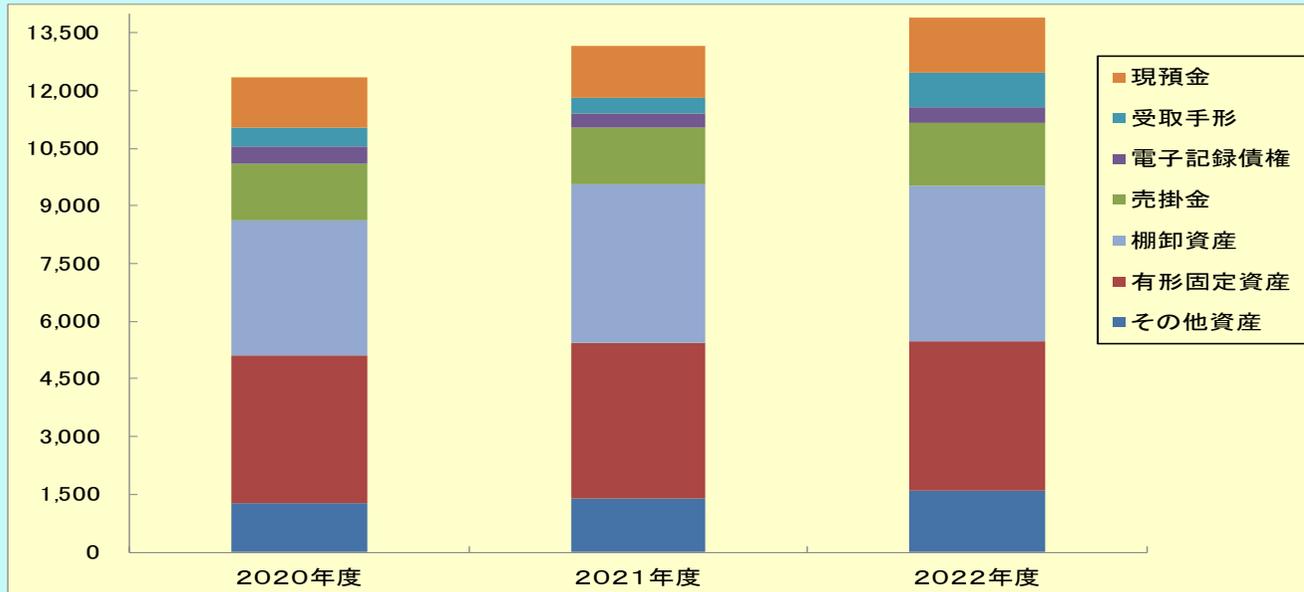
	2020年度	2021年度	2022年度
防毒マスク	1,453.8	1,301.5	1,444.6
防じんマスク	1,730.1	1,336.0	1,901.2
自給式呼吸器	785.5	745.2	707.7
その他の呼吸用保護具	998.2	930.4	931.7
その他	848.4	779.2	732.9
合計	5,816.0	5,092.4	5,718.1

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 期初より新型コロナウイルス感染症対策として、防じんマスクの受注が好調だったことから、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期間比で6億25百万円の増加となりました。
- ② 前年同期間比では、防毒マスクは1億43百万円の増加に加え、防じんマスクが5億65百万円と大幅に増加し、好調な受注状況を反映した結果となりました。
- ③ また、電動ファン付き呼吸用保護具の受注を中心に、その他の呼吸用保護具は前年同期間並みの実績を維持しています。

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2020年度	2021年度	2022年度
現預金	1,294.0	1,361.3	1,458.1
受取手形	528.8	412.2	884.5
電子記録債権	441.8	370.3	432.7
売掛金	1,443.8	1,450.7	1,607.6
棚卸資産	3,517.7	4,139.1	4,055.0
有形固定資産	3,865.6	4,075.3	3,886.6
その他資産	1,264.2	1,374.4	1,595.6
合計	12,355.8	13,183.3	13,920.1

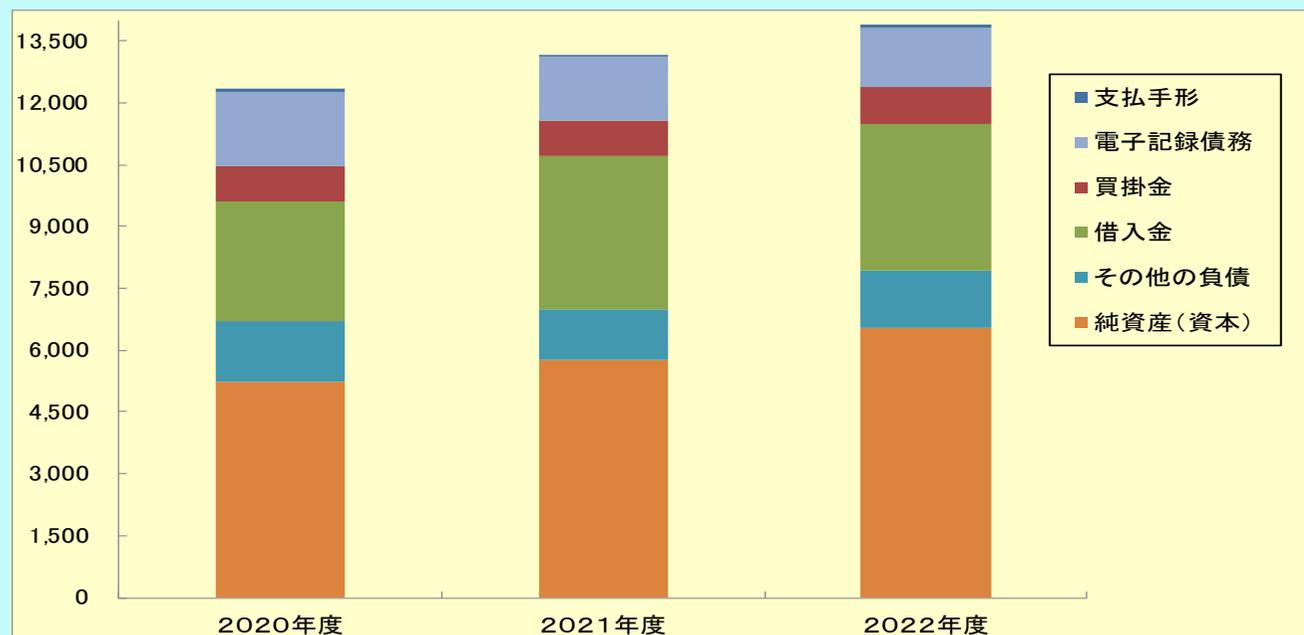
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では96百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 売上高の大幅増収を受け、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で6億91百万円の増加となりました。
- ③ 好調に推移する受注を踏まえ、事業所の増産体制強化を図っておりますが、売上高の大幅増収もあり、棚卸資産は前第2四半期末比では84百万円の減少となっております。
- ④ 減価償却の進捗により、有形固定資産は、前第2四半期末比では1億88百万円の減少となっております。
- ⑤ 保有株式の株価上昇を受け、投資有価証券が前第2四半期末比で1億92百万円増加したことを受け、その他資産全体は、2億21百万円の増加となりました。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

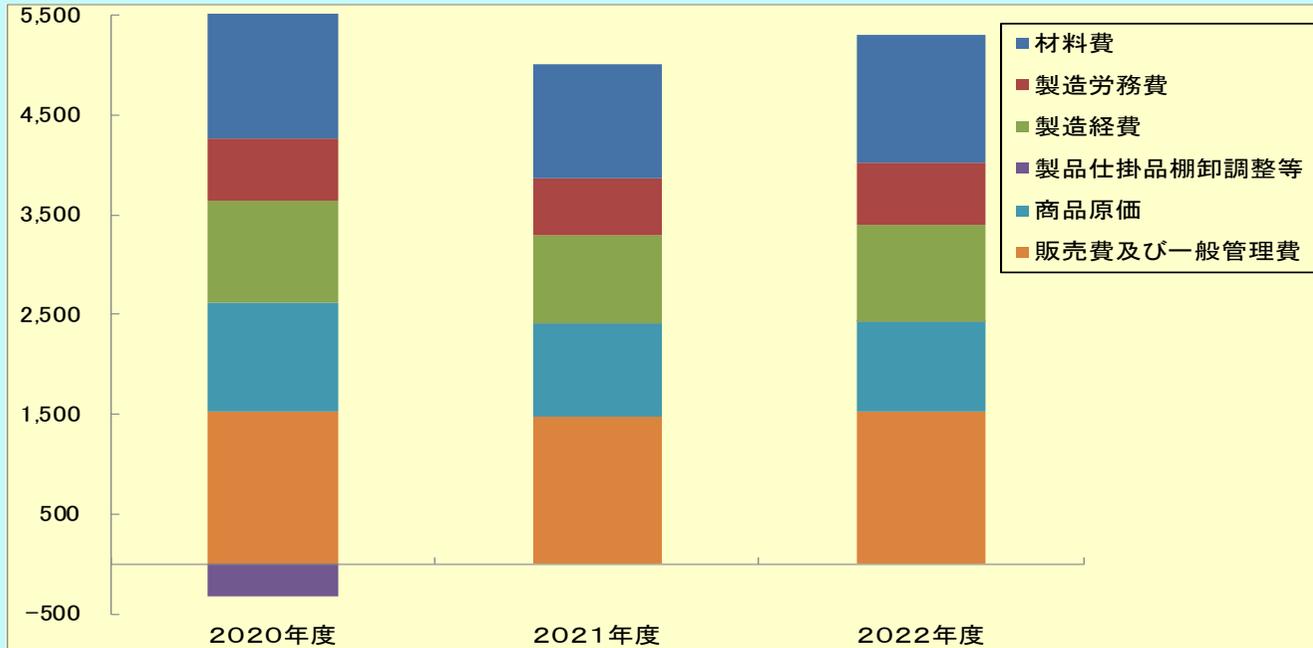
	2020年度	2021年度	2022年度
支払手形	72.8	70.4	85.8
電子記録債務	1,832.7	1,519.0	1,454.3
買掛金	827.7	867.7	896.0
借入金	2,930.0	3,745.0	3,535.0
その他の負債	1,442.3	1,210.0	1,406.0
純資産(資本)	5,250.2	5,771.2	6,543.0
合計	12,355.8	13,183.3	13,920.1

当第2四半期末の特徴

- ① 製品売上の増加に伴う材料等の仕入高が増加しましたが、商品仕入の減少幅が大きいこともあり、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比では21百万円の減少となっております。
- ② 売上高の増加に伴う運転資金需要がありました。前年同期間に設備資金借入を実施したことの影響もあり、借入金残高合計では、前第2四半期末比で2億10百万円減少しています。
- ③ 負債合計は35百万円減少、純資産は7億71百万円増加した結果、当第2四半期末の自己資本比率は47.0%となり、前第2四半期末比では3.2ポイント向上しました。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2020年度	2021年度	2022年度
材料費	1,465.3	1,144.7	1,291.3
製造労務費	615.6	562.1	629.2
製造経費	1,021.3	887.4	960.9
製品仕掛品棚卸調整等	△ 325.7	5.7	10.4
商品原価	1,102.4	938.9	891.8
販売費及び一般管理費	1,522.5	1,467.0	1,527.9
合計	5,401.4	5,005.7	5,311.5

当第2四半期累計期間の特徴

① 製品売上高増加に伴う生産増で、材料費は前年同期間比で、1億46百万円増加しています。

製造労務費は、新型コロナウイルス感染症対策用向けマスクの受注対応を中心に増産を続けた結果、前年同期間比では67百万円の増加となっています。

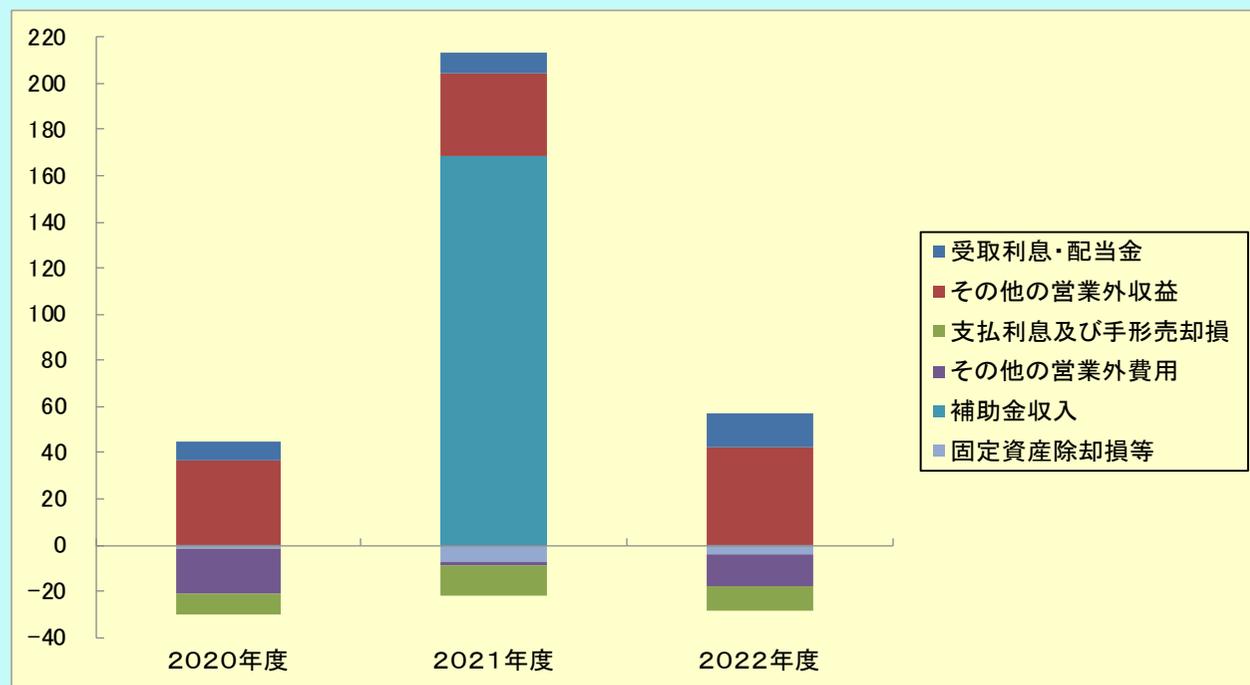
製造経費は、生産増に伴い、前年同期間比で73百万円増加しましたが、大幅な製品売上高の増加もあり、売上高に占める比率は21.8%と、前年同期間より2.2ポイント改善しました。

② 商品原価率は67.9%と、前年同期間比で若干の悪化となりました。これは商品売上が前年度よりも減少しているものの、商品原価も減少していることによる結果です。

③ 販売費及び一般管理費については、効率的な営業活動方法を推進したことにより、前年同期間比では60百万円の増加にとどまりました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、受取ロイヤルティが6百万円、受取利息・配当金が5百万円増加しています。
- ② 営業外費用は、為替相場における円安の進行により、為替差損が前年同期間比で12百万円の増加となりましたが、全体では10百万円の増加で前々年度並となりました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは特にありません。
- ④ 特別損失は、機械等の固定資産除却損を4百万円計上しています。

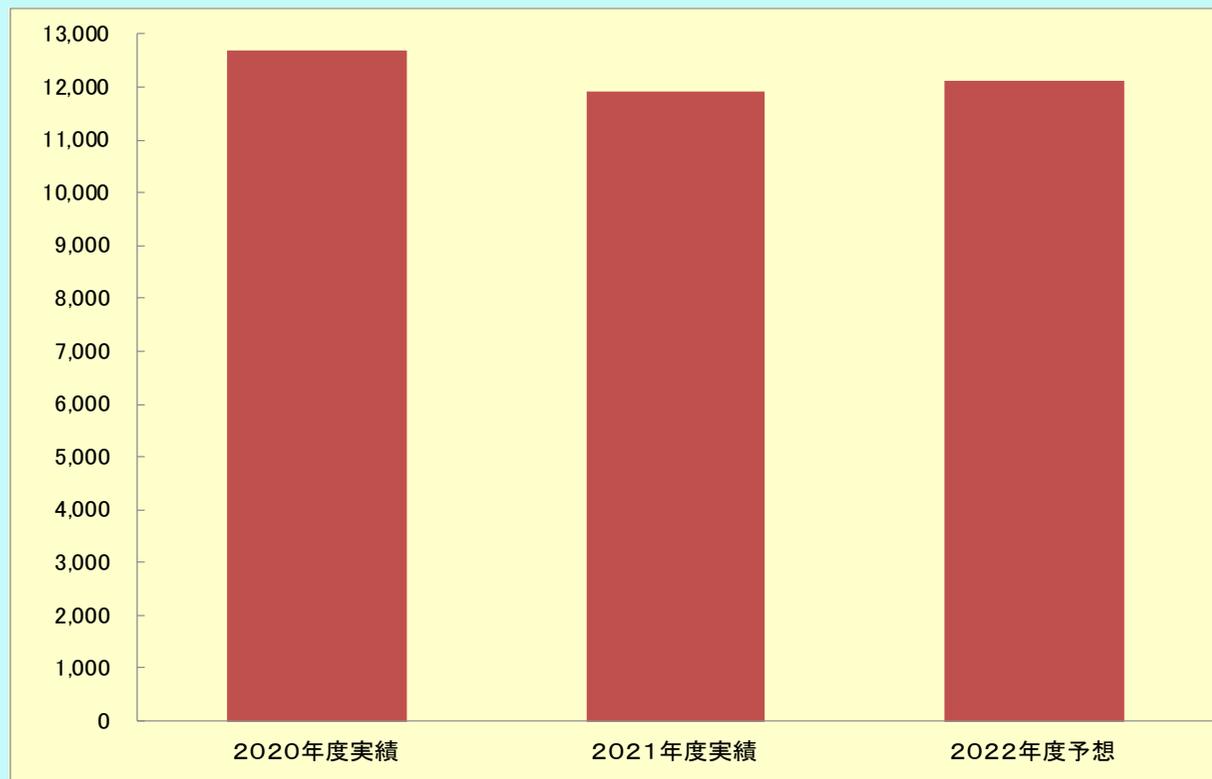
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2020年度	2021年度	2022年度	
営業外損益	受取利息・配当金	8.8	9.4	14.8
	その他の営業外収益	36.4	35.4	42.6
	支払利息及び手形売却損	△ 9.5	△ 12.8	△ 11.1
	その他の営業外費用	△ 19.0	△ 2.1	△ 13.5
	営業外損益合計	16.8	29.9	32.8
特別損益	補助金収入	-	168.5	-
	固定資産除却損等	△ 1.8	△ 7.0	△ 4.1
	特別損益合計	△ 1.8	161.5	△ 4.1

2022年度通期業績予想

2022年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	2020年度実績	2021年度実績	2022年度予想
通 期	12,699	11,918	12,100

状 況 と 見 通 し

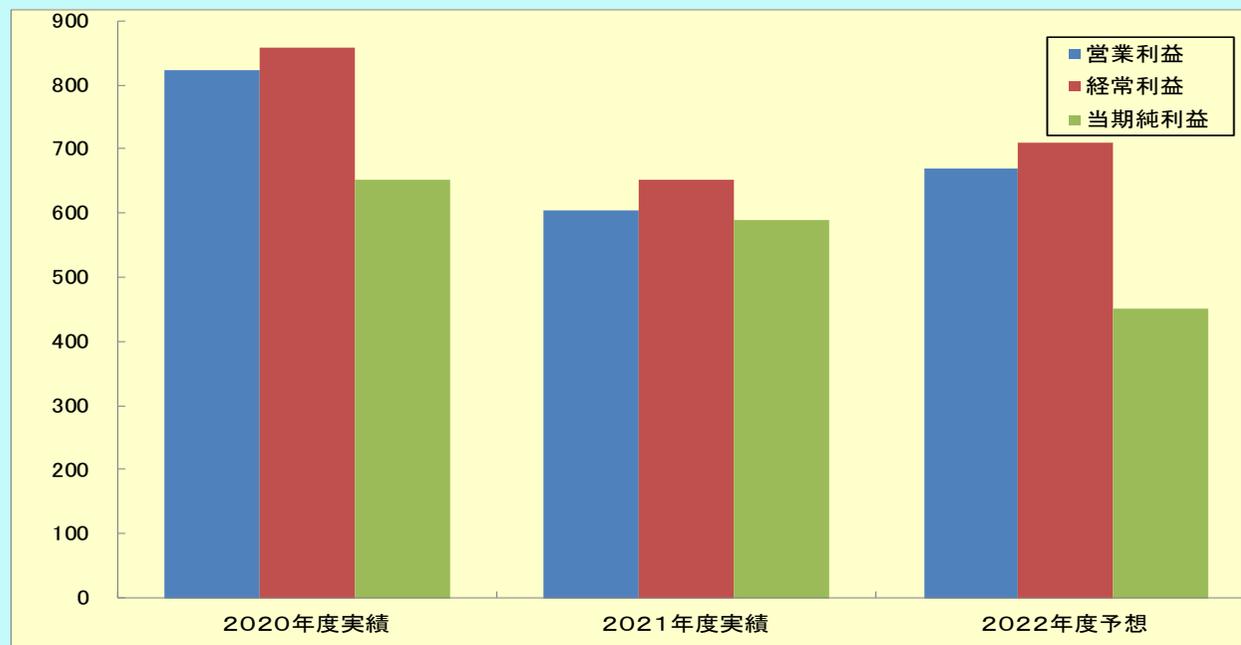
当第2四半期累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症対策として、防じんマスクの受注が急増した第1四半期に続いてその後も堅調に推移したこと、また主要顧客である製造業からの受注も堅調に推移したことから、売上高は前年同四半期比12.3%増の57億18百万円となりました。

通期の売上高予想値につきましては、新型コロナウイルス感染症第8波が予想されるなど、感染症対策用保護具の需要は、今後も一定以上の高い水準で推移すると見込まれます。一方、主要顧客である製造業の受注動向は相応の不透明さを残していますが、現時点では本年5月に公表した121億円の予想値に修正はありません。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

2022年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2020年度実績	2021年度実績	2022年度予想
営業利益	823.1	605.1	670.0
経常利益	859.3	653.6	710.0
当期純利益	651.1	589.1	450.0

状況と見通し

当第2四半期累計期間の利益面については、営業利益以下の各利益実績いずれも、本年5月に公表した利益予想値を大きく上回っております。一方、下期の利益予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の動向や我国を取り巻く経済環境の見通しにプラスマイナス要因が混在しており、不透明感があるのが実情です。

以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想につきましても修正は行わず、営業利益6億70百万円、経常利益7億10百万円、当期純利益4億50百万円を見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。